

あめなどの おかしが とても きちょうなこころの ことです。

まことのお母さまは あめなどの おかしの おくりものを うけとられると
ひとつ あけず ゼンぶ しまっておかれました。

そして きょうかいで ほうしをしながら おくれて 学校に かよいはじめた
食口たちに こころよく わけあたえ はげましてくださったのです。



「よる おそいのに まだ
べんきょうしているのね」



成和学生が きょうかいの れいはいどうの かたすみに つくえを 出して
べんきょうしています。

「これを たべながら べんきょうしなさい」

「これは ご子女さまのためにと おくられてきた おかしじゃないですか」

「あなたたちも わたしの 子どものよ。まことの父母にとっては
みんなが むすこ、むすめなのよ」

「ありがとうございます、まことのお母さま」

「あしたは ヒヨヂンの たんじょうびよね」

「はい、お母さま」

「それでは、このちかくに すんでいる 食口の中に

おたんじょうびの子が いたら しょうたいして

いっしょに たんじょうびパーティーを してあげましょう。

お金が なくて たんじょうびパーティーも できないでしようから」



まことのお母さまは ご子女さまと たんじょうびが おなじ子たちを よんで
たんじょうびパーティーを いっしょに してくださいました。

まずしくて たいへんな せいかつをしている 食口たちも、

まことの 子女さまとおなじように まことのお母さまの 子どもとして
おいわいしてくださいましたのです。



ある日 まことのお母さまは ちょうど でんどうかつどうを おえて
かえってきた 食口の くつを ごらんになりました。

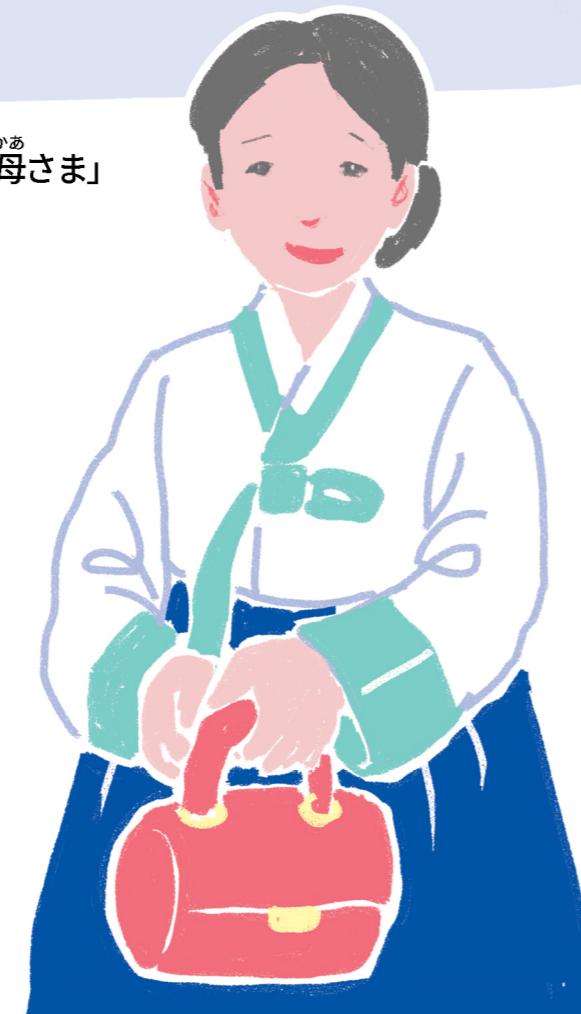
その食口は 足の つまさきが ちらりと かおを だすほど ふるびた
くつを はいていました。

まことのお母さまは すぐに はいていた くつを ぬぎ その食口に
はかせました。

「よかったです。ぴったりね」

「ありがとうございます、まことのお母さま」

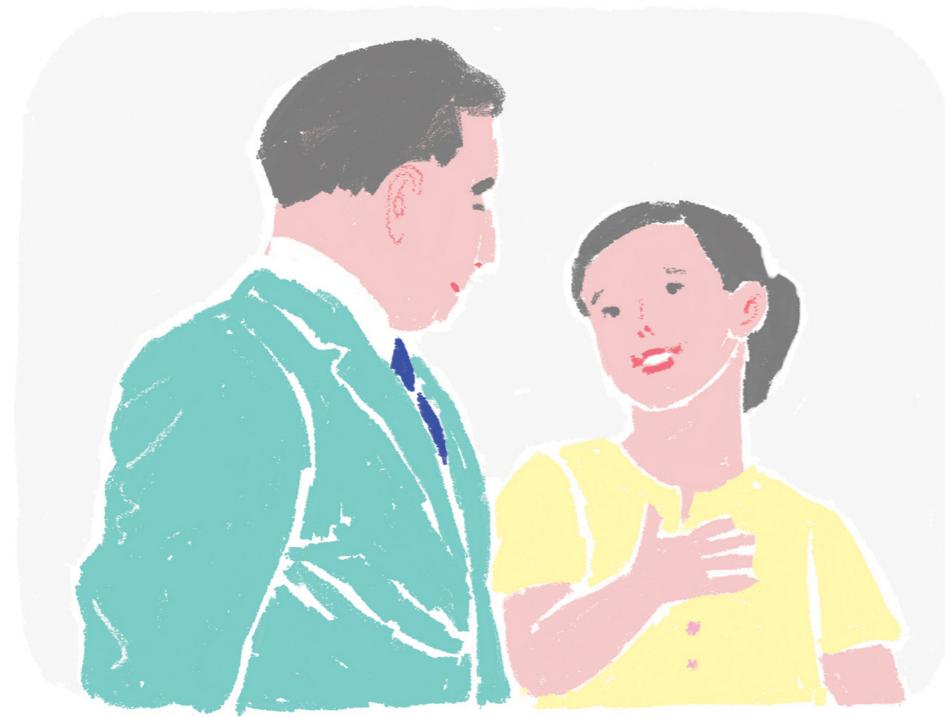
「あっ、ちょっと まって」



まことのお母さまは へやに 行って かばんを ひとつ もってこられました。

「そのくつには このかばんが にあいそうよ」

まことのお母さまは こまっている 食口を 見ると
ふくでも くつでも かばんでもすぐに あげてしまわれました。



ある日の ことです。
まことのお母さまが 大きな ふろしきを とりだし ふくを つつんで
いらっしゃいました。
なにを しているのか 気になって、まことのお父さまが たずねられました。

「なにを しようと しているんだい？」
「これは がいこくの きょうかいに おくる もつです」

がいこくに 行って げんりのみことばを つたえている せんきょうしたちに
おくる ふくを じゅんびして いらっしゃったのです。

まことのお母さまは がいこくで まともに たべることも きることも
できずに くろうしている せんきょうしたちを いつも じぶんの
子どものように 気にかけてくださいました。





きょうかいの ぎょうじで せんきょうしたちが
みんな あつまることに なりました。

「ふくを かいにいきましょう」

まことのお母さまは せんきょうしたちを つれて
おお 大きな ふくやさんに 行かれました。

「あなたには このふくが にいそうよ。

いちどきてごらんなさい」

まことのお母さまは かあ ひとりに にいそうな ふくを
ちょくせつ えらんでくださいました。
ところが あるせんきょうしだけ、 にあう ふくが なかなか
み 見つからなかったのです。
そのせんきょうしの ふくを さがすために なんじかんも あるいたので
まことのお母さまの かあ あしは パンパンに むくんでしました。

まことのお母さまの つきそいの人が ひと しんぱいして いいました。

「お母さま、 あしが とても むくんでいらっしゃいます。
もう これくらいで おかえりになつたら いかがですか？」
「いいえ。まだ あのせんきょうしに あう ふくが 見つからないのです」

まことのお母さまは やつとのことで、 そのせんきょうしに
よく にあう ふくを さがしたり、 かってくださいました。
このように まことのお母さまは かあ ひとりを こまやかな こころづかいで
あいしてくださいました。





「これから いっしょに 出かけないと
いけないから すぐに よういしてください」

「はい、ふくだけ きがえれば 出かけられますよ」

まことのお母さまが ようふくダンスを あけられました。
ところが ようふくダンスが ほとんど 空っぽなのです。



まことのお父さんは とても おどろき、たずねられました。

「おや？ ふくは いったい どこに 行ったんだい？」

「食口たちに 一つずつ わけてあげていたら いつのまにか
こうなってしまいました。わたしは だいじょうぶですよ」

にっこりと ほほえむ まことのお母さまを ごらんになり、
まことのお父さんが おっしゃいました。

「すべての 食口の お母さんである
あなたが ほんとうに ほこらしいよ」